

中型獣類にも対応した複合柵による 露地野菜の獣害対策（大熊町）

福島県農業総合センター 浜地域農業再生研究センター

事業名 福島県営農再開支援事業

小事業名 営農再開に向けた作付・飼養実証

研究課題名 野菜栽培における複合柵を用いた獣害対策の実証（大熊町）

担当者 小野 司

I 新技術の解説

1 要旨

営農再開地域では、農作物の獣害が問題となっており、特に、果菜類等の露地栽培ではイノシシだけでなく、ハクビシン等の中型獣類による被害も生じている。樹脂ネット柵と電気柵、防草シートが一体となった複合柵は、中型獣類の侵入防止も期待でき、イノシシやハクビシン等の多様な獣種による被害が防止できる。

- (1) 樹脂ネット柵と電気柵、防草シートが一体となった複合柵（マルチ E ネット(末松電子製作所製)、100m当たり約 11 万円）は、樹脂ネット柵と防草シートが一体のため、潜り込んでの侵入を防止でき、通電線が織り込まれているため柵を登ることも防止できる(図 1、図 2)。
- (2) 防草シートを敷設後に、支柱を打ち込み、ネットを支柱にパッカーで留めることで設置でき、周囲 100m の場合 5 人で約 4 時間の作業と比較的設置が容易である。
- (3) ほ場周辺では、イノシシやハクビシン等の出没が確認されたが、適切な管理状況下では被害が確認されていない(図 3)。

2 期待される効果

- (1) 多品目野菜の露地栽培において、多獣種に対する獣害対策が可能になる。

3 活用上の留意点

- (1) マルチ E ネットは、効果的な獣害対策であるが、資材のメリットとデメリットを把握した上で使用する（表 1）。
- (2) 排水溝等では、防草シートと地面に隙間ができないように施設する。
- (3) 定期的に点検と管理を行う必要がある。

II 具体的データ等



図1 マルチEネットの設置状況

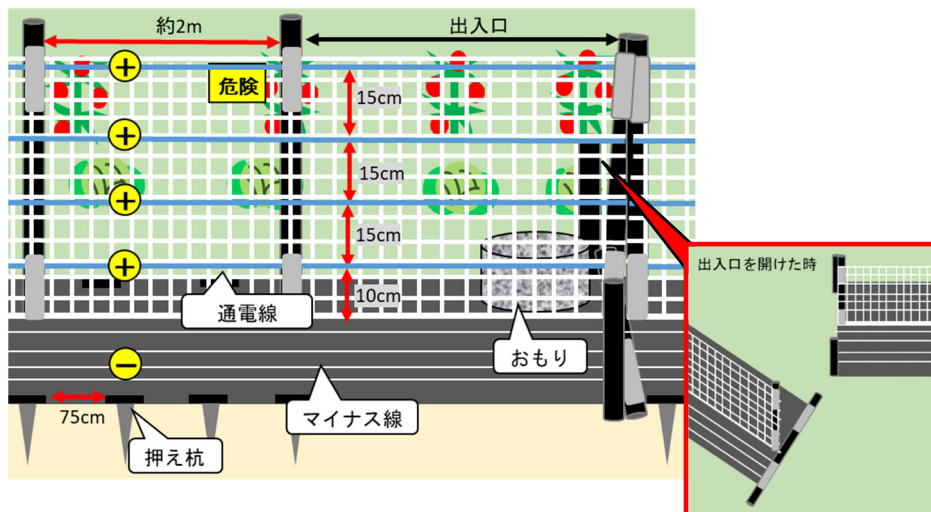


図2 マルチEネットの概要図

		3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
鳥獣被害の状況		被害なし			被害発生※1			被害なし			
主な品目と栽培期間	パレイショ	●	●	●	●	■	■				
	カボチャ			●	●	●	■				
	カンショ			●	●	●	■				
	ナス			●	●	●	■				
	キュウリ			●	●	●	■				
	トマト			●	●	●	■				
	サトイモ			●	●	●	■				
	ブロッコリー							●	●	■	
	ダイコン										●
	ネギ										

※1 排水路で防草シートが浮き上がり、トマトに中型獣類による被害

※2 ●: 播種あるいは定植、■: 収穫時期

図3 実証ほでの主な栽培品目と鳥獣被害の状況

表1 マルチEネットのメリットとデメリット

項目	メリット	デメリット
防除効果	イノシシ・アライグマ・ハクビシン等の対策が可能 ネット下から侵入されない	—
費用	同様の複合柵を自作するよりも安価	防草シートは補助事業の対象外の場合が多い
設置方法	通電線の高さ調整等が不要 初めての設置でも分かりやすい	高低差がある場所には、設置しにくい
管理	防草シート部分の除草が不要 刈払いの際に柵を損傷しにくい 積雪地ではネットを降ろすことで破損を防げる	風雨等によって防草シートの押え杭が浮き上がる 場合がある 入り口が風などで巻き上がりやすい ネットが垂れ下がると漏電する

III その他

- 1 執筆者 小野 司
- 2 実施期間 令和2年度
- 3 主な参考文献・資料 なし